

第88回 簿記実務検定第2級試験問題

商業簿記

(制限時間 1時間30分)

1

下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現金	当座預金	受取手形	売掛金
繰越商品	未収金	仮払法人税等	備品
備品減価償却累計額	支払手形	買掛金	未払法人税等
未払配当金	社債	資本金	資本準備金
利益準備金	別途積立金	繰越利益剰余金	売上
受取利息	固定資産売却益	仕入	支払利息
社債発行費	固定資産売却損	支店	本店
損益	試用販売契約	試用仮売上	

- a. 試用販売のため、岩手商店に売価 ¥490,000 の商品を送付していたが、本日、同店からこの商品を買取るとの通知を受けた。なお、商品の発送時に対照勘定を用いて備忘記録をしている。
- b. さきに、北東商店から商品代金として受け取っていた同店振り出し、当店あての約束手形について、支払期日の延期の申し出があり、これを承諾した。よって、支払期日の延期にともなう利息 ¥4,000 を加えた新しい手形 ¥868,000 を受け取り、旧手形と交換した。
- c. 鳥取商会は、取得原価 ¥1,200,000 の商品陳列用ケースを ¥400,000 で売却し、代金は月末に受け取ることにした。なお、この商品陳列用ケースに対する減価償却累計額は ¥720,000 であり、これまでの減価償却高は間接法で記帳している。
- d. 西北商会の本店は、決算の結果、支店が当期純損失 ¥290,000 を計上したとの通知を受けた。
(本店の仕訳)
- e. 沖縄商事株式会社（発行済株式総数 6,300株）は、株主総会において、繰越利益剰余金を次のとおり配当および処分することを決議した。ただし、繰越利益剰余金勘定の貸方残高は ¥4,500,000 である。
利益準備金 ¥189,000 配当金 /株につき ¥300 別途積立金 ¥1,700,000
- f. 山形商事株式会社は、次の条件で社債を発行し、全額の払い込みを受け、払込金は当座預金とした。なお、この社債の発行に要した諸費用 ¥250,000 は小切手を振り出して支払った。
発行条件 額面総額 ¥50,000,000 払込金額 額面 ¥100 につき ¥97.50
償還期限 5年 利 率 年3.5% 利 払い 年2回
- g. 青森商事株式会社（決算年/回）は、中間申告をおこない、前年度の法人税・住民税及び事業税の合計額 ¥2,130,000 の2分の1を小切手を振り出して納付した。

2

次の取引を特殊仕訳帳としての売上帳および普通仕訳帳に記入し、総勘定元帳と売掛金元帳に転記しなさい。

ただし、i 総勘定元帳への転記は、特殊仕訳帳から直接おこなうこと。

ii 売上帳は、月末に締め切るものとする。

iii 普通仕訳帳の小書きは省略する。

iv すでに記入してある取引も転記すること。

v 総勘定元帳・売掛金元帳の記入は、日付と金額を示せばよい。

vi ほかに特殊仕訳帳として、現金出納帳・当座預金出納帳・仕入帳を用いている。

取引

1/月/8日 広島商店に次の商品を売り渡し、代金のうち ¥200,000 は同店振り出しの小切手#6で受け取り、ただちに当座預金に預け入れ、残額は掛けとした。

A 品 300個 @¥900 ¥270,000

2/日 広島商店に売り渡した上記商品のうちに品違いがあったので、次のとおり返品された。

なお、代金は売掛金から差し引くことにした。

A 品 10個 @¥900 ¥ 9,000

24日 山口商店に次の商品を売り渡し、代金は掛けとした。

B 品 200個 @¥550 ¥110,000

28日 山口商店に対する売掛金の一部を、同店振り出しの約束手形#4 ¥200,000 で受け取った。

3

次の各問いに答えなさい。

(1) 島根商店（個人企業 決算年/回 12月31/日）の下記の資料によって、次の金額を計算しなさい。

a. 支店勘定残高と本店勘定残高の一致額

b. 本支店合併後の仕入高

資料

i 元帳勘定残高（一部）

	本 店	支 店
繰 越 商 品	¥ 916,000	¥ 523,000
支 店	570,000 (借方)	—
本 店	—	476,000 (貸方)
売 上	6,520,000	3,240,000
仕 入	4,742,000	2,273,000

ii 付記事項

① 本店から支店に発送した商品 A ¥65,000 (原価) がまだ支店に到着しておらず、支店側で未処理であった。

② 支店から本店に発送した商品 B ¥29,000 (原価) がまだ本店に到着しておらず、本店側で未処理であった。

iii 決算整理事項（一部）

期末商品棚卸高 本店 ¥ 837,000 (付記事項の商品は含まれていない)

支店 ¥ 512,000 (付記事項の商品は含まれていない)

- (2) 福島商店では伝票制を採用し、仕入・売上の各取引については、代金の決済条件にかかわらず、すべて、いったん掛け取引として処理する方法によっている。よって、
- a. 6月/日の略式の伝票を集計したさいの仕訳集計表の(ア)と(イ)に入る金額を計算しなさい。
ただし、下記の取引について、必要な伝票に記入したうえで計算すること。
- b. 下記の伝票から、買掛金元帳に転記後の仕入先郡山商店に対する買掛金の残高を計算しなさい。

取 引

6月 /日 宮城商店から商品 ¥305,000 を仕入れ、代金はさきに支払っていた内金 ¥90,000 を差し引き、残額は現金で支払った。

入金伝票	
売掛金(白河商店)	360,000
前受金	253,000
受取手数料	5,000
() ()	

出金伝票	
買掛金(本宮商店)	190,000
当座預金	60,000
買掛金(郡山商店)	140,000
() ()	

売上伝票	
伊達商店	367,000
白河商店	360,000
白河商店(返品)	12,000
相馬商店	233,000

仕入伝票	
本宮商店	411,000
郡山商店	284,000
郡山商店(値引)	2,000
() ()	

振替伝票(借方)		振替伝票(貸方)	
支払手形	102,000	当座預金	102,000
買掛金(本宮商店)	125,000	前払金	125,000
買掛金(郡山商店)	160,000	支払手形	160,000
当座預金	255,000	売掛金(伊達商店)	255,000
当座預金	268,000	売掛金(相馬商店)	268,000
() ()		() ()	

仕訳集計表

平成〇年6月/日

借方	元	勘定科目	元	貸方
		現金		
		当座預金		
		売掛金		(ア)
		前払金		
		支払手形		
		買掛金		
		前受金		
		売上		
		受取手数料		
		仕入		
(イ)				(イ)

買掛金元帳

郡山商店

2

6/1 前月繰越 501,000

- (3) 未着商品売買をおこなっている秋田商店の下記の資料と勘定記録によって、次の金額を計算しなさい。
- a. 未着商品勘定の(ア)の金額 b. 仕入勘定の(イ)の金額
- c. /月末における未着商品勘定の残高

資 料

- i 商品A ¥ は、先月に注文をし、/月8日に貨物引換証を受け取った。その後、商品Aの到着を待たず、/月23日にすべて他店へ売却した。
- ii 商品B ¥300,000 は、先月に注文をしていた商品であり、/月29日に到着した。その際、さきに受け取っていた貨物引換証と引き換えに、商品Bを受け取り、引取費用 ¥3,000 は現金で支払った。
- iii 商品C ¥500,000 は、/月9日に注文をし、同月/5日に貨物引換証を受け取った。商品Cの到着は来月の予定である。

未着商品		仕入	
1/1 前期繰越 300,000	1/23 仕入 400,000	1/23 未着商品 400,000	
8 買掛金(ア)	29 仕入()	29 諸口(イ)	
15 買掛金 500,000			

4

岡山商店（個人企業 決算年/回 /2月3/日）の総勘定元帳残高と付記事項および決算整理事項は、次のとおりであった。よって、

- (1) 損益計算書（2区分）と貸借対照表を完成しなさい。
- (2) 売上原価の金額を求めなさい。

元帳勘定残高

現金	¥ 198,000	当座預金	¥ 3,632,000	受取手形	¥ 1,800,000
売掛金	2,600,000	貸倒引当金	2,000	有価証券	1,440,000
繰越商品	2,070,000	備品	2,300,000	備品減価償却累計額	920,000
支払手形	307,000	買掛金	1,543,000	借入金	2,000,000
前受金	60,000	所得税預り金	90,000	資本金	7,451,000
売上	21,701,000	有価証券売却益	52,000	仕入	17,020,000
給料	1,794,000	支払家賃	822,000	保険料	210,000
消耗品費	61,000	雑費	80,000	支払利息	99,000

付記事項

- ① 売掛金 ¥100,000 を現金で回収していたが未処理である。

決算整理事項

- a. 期末商品棚卸高 ¥1,850,000
- b. 貸倒見積高 受取手形と売掛金の期末残高に対し、それぞれ/%と見積もり、貸倒引当金を設定する。
- c. 備品減価償却高 定率法による。ただし、償却率は40%とする。
- d. 有価証券評価高 有価証券は、売買目的で保有している次の株式であり、時価によって評価する。
倉敷商事株式会社 20株 時価 /株 ¥75,000
- e. 消耗品未使用高 未使用分 ¥45,000 を消耗品勘定により繰り延べること。
- f. 保険料前払高 保険料のうち ¥138,000 は、本年7月/日から/年分の保険料として支払ったものであり、前払高を次期に繰り延べる。
- g. 利息未払高 ¥ 9,000

第88回 簿記実務検定 2級 **商業簿記** [解答用紙]

1	借	方	貸	方
a				
b				
c				
d				
e				
f				
g				

1 得点	2 得点	3 得点	4 得点	総得点
---------	---------	---------	---------	-----

試験場校	受験番号

[illegible]

普通仕訳帳

2

平成 〇年	摘 要	元 子	借 方	貸 方
	前ページから		2,190,000	2,190,000

総 勘 定 元 帳

当 座 預 金		2	受 取 手 形		3
1/1 前期繰越	523,000		1/1 前期繰越	410,000	
売 掛 金		4	売 上		19
1/1 前期繰越	870,000				

売 掛 金 元 帳

山 口 商 店		1	広 島 商 店		2
1/1 前月繰越	460,000		1/1 前月繰越	180,000	

3

- (1)
- | | |
|---------------------------------|----------------------|
| a 支店勘定残高と
本店勘定残高の ¥
一 致 額 | b 本支店合併後の ¥
仕 入 高 |
|---------------------------------|----------------------|
- (2)
- | | |
|-------|-----|
| a ア ¥ | イ ¥ |
| b ¥ | |
- (3)
- | | |
|-----|-----|
| a ¥ | b ¥ |
| c ¥ | |

2 得点	3 得点
----------------	----------------

4

(1)

損 益 計 算 書

岡山商店

平成○年/月/日から平成○年/2月3/日まで

(単位：円)

費 用	金 額	収 益	金 額
期 首 商 品 棚 卸 高		売 上 高	
仕 入 高		()	
()			
給 料		売 上 総 利 益	
()		有 価 証 券 売 却 益	
()		()	
支 払 家 賃			
保 険 料			
()			
雑 費			
()			
()			

貸 借 対 照 表

岡山商店

平成○年/2月3/日

(単位：円)

資 産	金 額	負 債 お よ び 純 資 産	金 額
現 金		支 払 手 形	
当 座 預 金		()	
受 取 手 形 ()		借 入 金	
貸 倒 引 当 金 ()		()	
売 掛 金 ()		()	
貸 倒 引 当 金 ()		()	
()		資 本 金	
()		()	
消 耗 品			
()			
備 品 ()			
減価償却累計額 ()			

(2)

売 上 原 価 ㄱ

4
得点

1	借 方		貸 方	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方
a	売 掛 金 490,000 試用仮売上 490,000	売 上 490,000 試用販売契約 490,000		
b	受 取 手 形 868,000	受 取 手 形 864,000 受 取 利 息 4,000		
c	備品減価償却累計額 720,000 未 収 金 400,000 固定資産売却損 80,000	備 品 1,200,000		
d	損 益 290,000	支 店 290,000		
e	繰越利益剰余金 3,779,000	利 益 準 備 金 189,000 未 払 配 当 金 1,890,000 別 途 積 立 金 1,700,000		
f	当 座 預 金 48,750,000 社 債 発 行 費 250,000	社 債 48,750,000 当 座 預 金 250,000		
g	仮払法人税等 1,065,000	当 座 預 金 1,065,000		

2

平成 〇年	売 上 帳				2
	勘定科目	摘 要	平 子	売 掛 金	諸 口
/ 16	受取手形	前ページから 山口商店 約手	3	540,000	300,000
	売 掛 金	掛 け B 品 620個 @¥550	売1	191,000	150,000
18	当座預金	小切手	✓		200,000
	売 掛 金	掛 け A 品 300個 @¥900	売2	70,000	
21	売 掛 金	広島商店 掛け返品	売2	9,000	
		A 品 10個 @¥900			
24	売 掛 金	山口商店 掛 け	売1	110,000	
		B 品 200個 @¥550			
31		売 掛 金 4		911,000	650,000
〃		総売上高 19			1,561,000
〃		売上返品高 19/4			9,000
		純売上高			1,552,000

普通仕訳帳

平成 〇年	普 通 仕 訳 帳				2
	勘定科目	平 子	借 方	貸 方	
1 28	(受取手形)	前ページから	2,190,000	2,190,000	
		3	200,000		
	(売 掛 金)	4/売1		200,000	

総勘定元帳

当座預金		2	受取手形	3
1/1 前月繰越	523,000	1/1 前期繰越	410,000	
		16	150,000	
		28	200,000	
売掛金		4	売上	19
1/1 前期繰越	870,000	1/28	200,000	1,561,000
31	911,000	31	9,000	
山口商店		1	広島商店	2
1/1 前月繰越	460,000	1/28	200,000	1/21 9,000
16	191,000		18	70,000
24	110,000			

3

支店勘定残高と 本店勘定残高の 一致	b	541,000	本支店合併後の 仕入高	7,109,000
a				

(1)

7	895,000	イ	4,197,000
a			
b	483,000		

(2)

a	400,000	b	303,000
c	500,000		

損益計算書

(1) 岡山商店 平成〇年/月/日から平成〇年/2月3/日まで (単位:円)

費用	金額	収益	金額
期首商品棚卸高	2,070,000	売上	21,701,000
仕入高	17,020,000	(期末商品棚卸高)	1,850,000
※(売上総利益)	4,461,000		
給料	23,551,000		23,551,000
(貸倒引当金繰入)	1,794,000	売上総利益	4,461,000
(減価償却費)	41,000	有価証券売却益	52,000
支払家賃	552,000	(有価証券評価益)	60,000
保険料	822,000		
(消耗品費)	141,000		
雑費	16,000		
(支払利息)	80,000		
※(当期純利益)	108,000		
	1,019,000		
	4,573,000		4,573,000

(i) 貸倒引当金繰入は、貸倒償却でもよい。
(ii) ※印の売上総利益と当期純利益の記入は、赤記でもよい。

貸借対照表

岡山商店		平成〇年/2月3/日		(単位：円)	
資	産	金	額	負 債 お よ び 純 資 産	金 額
現	金	298,000		支 払 手 形	307,000
当 座 預 金		3,632,000		(買 掛 金)	1,543,000
受 取 手 形 (1,800,000)				借 入 金	2,000,000
貸 倒 引 当 金 (18,000)		1,782,000		(前 受 金)	60,000
売 掛 金 (2,500,000)				(所得税預り金)	90,000
貸 倒 引 当 金 (25,000)		2,475,000		(未 払 利 息)	9,000
(有 価 証 券)		1,500,000		資 本 金	7,451,000
(商 品)		1,850,000		(当 期 純 利 益)	1,019,000
消 耗 品		45,000			
(前 払 保 険 料)		69,000			
備 品 (2,300,000)					
減価償却累計額 (1,472,000)		828,000			
		12,479,000			12,479,000

(2)

売上原価	17,240,000
------	------------